



宮地エンジニアリングとエム・エムブリッジを基幹としたグループ全体で「共に成長する」、協力会社とは「共に歩む」を合言葉に、「連携をより一層強化しながら、国民の安全と安心に引き続き貢献していく」ことを強調する。

2021年も長引くコロナ禍の影響を受けたものの、東証の市場再編成に伴うプライム市場

への移行に向けて、監査等委員会設置会社への移行や指名・報酬委員会の設置といった体制を整えてきた。

受注競争が激化する中、業績については「千葉工場改革プロジェクトや現場工事の生産性向上、技術開発などに加え、全社を挙げた業務の効率化によって、期首に計画した売り上げ600億円、営業利益45億円に近い数

く。

高速道路会社を中心に保全事業のシェアが拡大している国内の鋼橋市場の変化・動向を踏まえ、「グループの総合エンジニアリング力を発揮することともに、経営資源を新設橋梁と大規模更新工事にバランス良く投入し、適切な(受注)選択へとシフトしていく」方針を示す。技術開発にも力を入れる。高

共に成長する、共に歩む

値に達する「見通しで、堅調さを維持する。

22年度を初年度とする新5カ年事業計画の策定に当たっては、「ここ数年のうちに発注される、世界的な斜張橋を含む大阪湾岸線関連の大型工事への対応を強化する」ことを念頭に置

効率かつ短時間で合成桁の床版を撤去できる「M-SRシステム」はその代表といえる。

現場、工場を問わず、生産態勢の中核が技術者と建設技能者である以上、「担い手を確保して育てることは企業の責任だ」との認識の下、DX(デジタル

トランスフォーメーション)に基づく生産性向上と働き方改革を両輪で進める。「グループと協力会社がともに成長する企業ネットワークを構築していく」姿勢を明確化する。

建設キャリアアップシステムについては「建設技能者の技能と賃金が正当に評価され、次世代の育成にもつながるツールとして積極的に活用しなければならぬ」とし、「建設業の魅力を理解した技能者が増えなければ、業界に未来はない」と力を込める。

カーボンニュートラルについても「未来の子どもたちへの責任」とし、旧松本工場跡地を活用した太陽光発電所の運営、千葉工場での水素ガス切断導入テストを実施し、「CO₂の排出抑制に貢献していく」としている。

